第２章　美郷町の文化財の概要

第１節　美郷町の文化財調査

１　文化財の把握調査

（１）これまでの文化財の把握調査

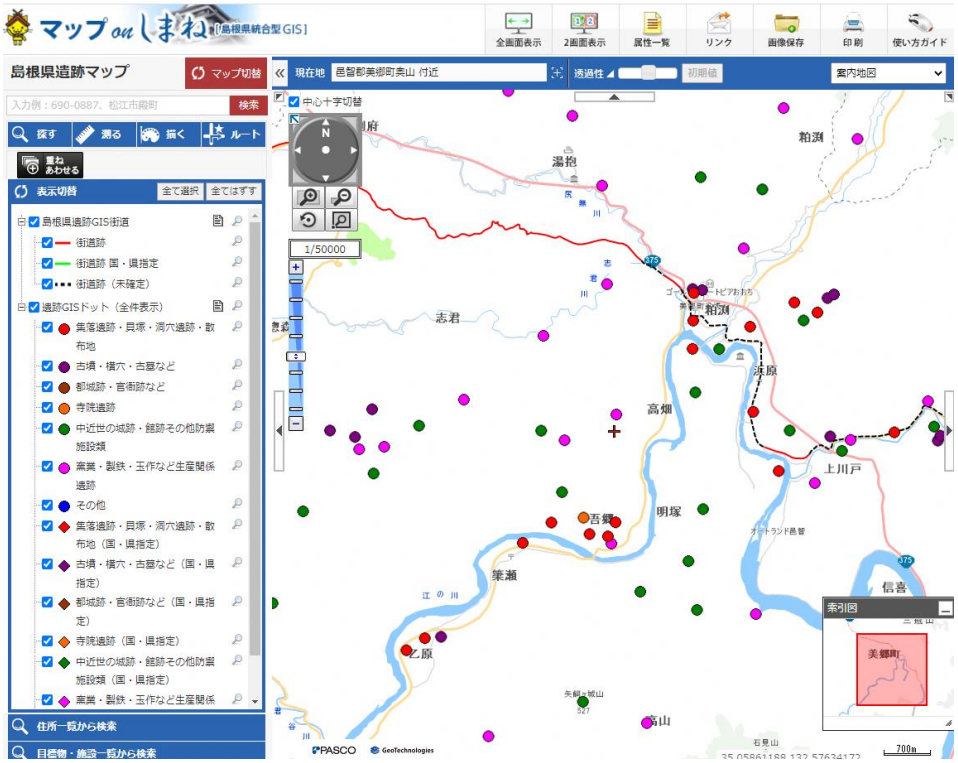


未指定文化財を含めた文化財の概要「美郷の文化財」

美郷町においては、『美郷の文化財』（令和４年(2022) ３月）の刊行に際して、令和３年度(2021)に美郷町教育委員会が町内の有形・無形の文化財について、未指定文化財の把握調査及び指定文化財を含めた整理・編集を行った。こうした文化財の把握は、平成 13 年度(2001)に旧邑智町で行った文化財調査、及び邑智町誌、大和村誌をもとにした現地調査が基本となった。また、文化庁や島根県教育委員会等が実施した既往調査（表 2-2）を参考にするとともに、遺跡については、島根県遺跡データベース（島根大学）及び島根県統合型 GIS「マップ on しまね」で公開されている「遺跡マップ」を活用した。なお、調査及び編集においては、アドバイザー（石見銀山資料館館長)、調査員（美郷町文化財保護審議会委員）５名、及び事務局（教育課）からなる体制を構築した。

さらに、本計画の作成過程では、「地域の宝」の再発見として、アンケート調査（次頁の資料）を実施するとともに、地区別のワークショップでも未指定文化財に関する情報把握などに取り組んだ。

しかし、個々の文化財についての個票作成やデータベース化には至っていない。



島根県統合型 GIS「マップ on しまね」における「遺跡マップ」

参考資料：「地域の宝」の再発見　アンケート調査（上段：表面、下段：裏面…Ａ３判）

『地域の宝』の再発見
～よく知られた、あまり知られていない、埋もれている…
『地域の宝』（文化財）を教えてください～

美郷町には、各所に有形・無形の数多くの文化財が存在します。その中には、文化財指定により保存・活用されているもののほかに、膨大な数の未指定の文化財が存在していると考えられます。

美郷町では、こうした有形・無形、指定・未指定の文化財の保存・活用をめざし、基本的なアクションプラン（目標や具体的な取組など明らかにする計画）である「文化財保存活用地域計画」の策定に取り組んでいます。

この計画に、町民のみなさまがご存じの文化財の情報、及び文化財の保存・活用や歴史文化を活かした地域づくりなどに関する思い・意見を反映させるため、「地域の宝」やその保存・活用に関する意見をお聞きすることとしました。

【提出方法】

○この用紙に記入して、ワークショップの終了後に、担当の職員にお渡しください。又は、後日、各公民館、美郷町教育委員会教育課（役場）にご提出ください（ワークショップの終了後１か月以内）。

＜問い合わせ先＞

美郷町役場教育委員会教育課

電話：（0855）75-1217　FAX：（0854）84-9156　　担当：岩谷

問１　お住まいの地区（地域）で、できれば国・県・町が指定している文化財（右の図）以外で、守り・活かしたい（守り・活かして欲しい）「地域の宝（文化財）」がありましたら、下表にご記入ください。

六つ以上ある場合は、裏面の地図やその余白にご記入ください。

場所を示すことができる場合は、裏面の地図にご記入ください。※「文化財とは」：右下をご覧ください。

番号	地域の宝（未指定等文化財）の名称	左記の概要や特徴など（問題点を含む）
1		
2		
3		
4		
5		

＜例＞

・建築物：伝統的（歴史的）な商家・民家・土蔵、工場、寺社、祠・・・
・工作物・石造物：歴史的な堤防、橋、鉄橋、石垣、碑、石灯籠、道標・・・
・民俗芸能・神事：踊り、祭り、寺や神社の行事・・・
・伝承・慣習・信仰・食文化：言い伝え、物語、伝承地、伝統的な習慣、伝統的な料理や食材・・・
・伝統的な産業や技術・技能、川の漁法、特産品、風物詩・・・
・自然・天然記念物：鉱山跡、渓谷、渓流、滝、奇岩、信仰の山、巨木、希少な植物・生き物・・・
・古墳、城跡、歴史的な道・街道、庭園・・・
・美しい景観：自然の景観（山・森、川…）、町並みの景観、田園・棚田・集落の景観　等々

問２　地域の宝（文化財）を守り、活かす取組・アイデア、問題点などについて、自由にご記入ください。

【参考：美郷町の指定文化財】



文化財とは

指定などの措置がとられているか否かにかかわらず、歴史上または芸術上など価値が高いあるいは人々の生活の理解のために必要なすべての文化的所産　※文化審議会文化財分科会企画調査会報告書（平成19年10月）より

地域の宝（文化財）マップ

■取り上げていただいた「地域の宝（未指定文化財）」のうち、場所を示すことができる場合は、下の地図に点や範囲などを記入し、その近くに前頁の表の番号又は名称を記してください。

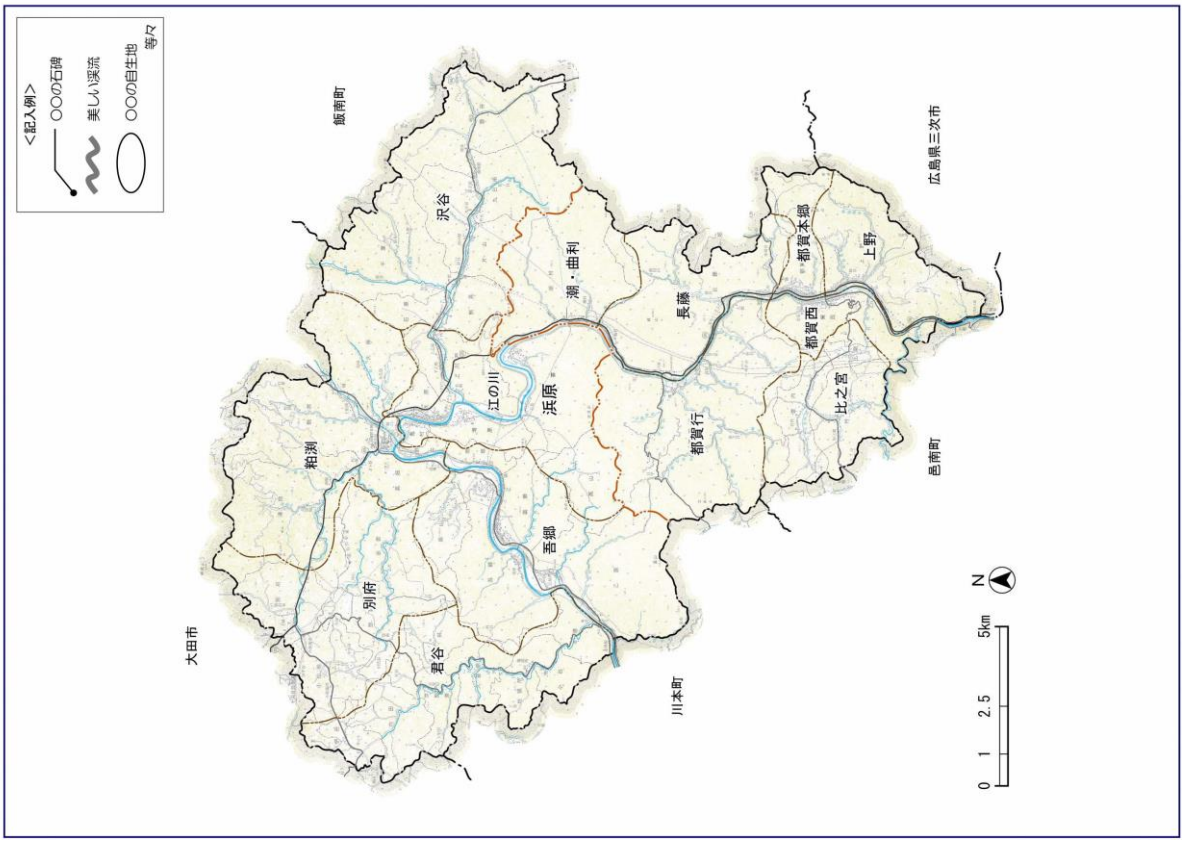


表 2-1　島根県及び国等における文化財関係調査報告書一覧
（埋蔵文化財調査報告書・研究報告書を除く）　令和６年(2024) 1 月 31 日現在 (1/2)

種別	報告書名称	調査主体	報告書刊行年	備考
	島根県史蹟名勝天然紀念物調査報告1	島根県	1923	隠岐の天然記念物、三瓶山、霞石、畳ヶ浦などの調査報告
	島根県史蹟名勝天然紀念物調査報告2	島根県	1925	
	島根県史蹟名勝天然紀念物調査報告3	島根県	1929	津和野城、忌部村の上代玉作遺跡、龍頭滝、断魚渓などの調査報告
	島根県史蹟名勝天然紀念物調査報告4	島根県	1930	船通山、美保の北浦、千丈渓などの調査報告
	島根県史蹟名勝天然紀念物調査報告5	島根県	1933	小泉八雲旧居、安部谷の古墳などの調査報告
	島根県史蹟名勝天然紀念物調査報告6	島根県	1934	天平時代の古窯址、出雲国庁、隠岐国分寺、琴ヶ浜などの調査報告
	島根県史蹟名勝天然紀念物調査報告7	島根県	1935	松江藩古浦砲台跡、来原の岩樋、水仙自生地などの調査報告
	島根県史蹟名勝天然紀念物調査報告8	島根県	1936	隠岐布施海岸、白島海岸、国賀海岸、知夫赤壁などの調査報告
	島根県史蹟名勝天然紀念物調査報告9	島根県	1937	大垣の古墳、津和野養老館、三隅城、波根西の珪化木などの調査報告
	島根県文化財調査報告第1集	島根県教育委員会	1965	隠岐の神社建築、県下の刀剣、大田市八幡宮鉄塔、植物ほか
	島根県文化財調査報告第2集	島根県教育委員会	1966	県下の仏像、甲冑、青銅器、地質鉱物、大森銀山など
	島根県文化財調査報告第3集	島根県教育委員会	1967	県下の彫刻、銅鐘、経筒、隠岐の地質鉱物・植物など
	島根県文化財調査報告第4集	島根県教育委員会	1968	県下の古墳・横穴墓
	島根県文化財調査報告第5集	島根県教育委員会	1968	八雲立つ風土記の丘地内の史跡、建造物、絵画、神事など
	島根県文化財調査報告第6集	島根県教育委員会	1970	出雲地方の大社造、明治期の建造物、隠岐の田楽、出雲平野の屋敷など
	島根県文化財調査報告第7集	島根県教育委員会	1971	北島国造家四脚門、県下の銅鐘、手漉紙、出雲の地方の民具など
	島根県文化財調査報告第8集	島根県教育委員会	1972	物部神社本殿、県下の工芸品、出雲国風土記写本など
	島根県文化財調査報告第10集	島根県教育委員会	1975	松江城の城郭について
	島根県文化財調査報告第11集	島根県教育委員会	1977	県下の流造り社殿、神像、収集民具
	島根県文化財調査報告第12集	島根県教育委員会	1978	県下の流造り社殿、神像、収集民具
	八雲立つ風土記の丘周辺の文化財	島根県教育委員会	1975	風土記の丘周辺の史跡、建造物、絵画、工芸品、彫刻などを収録
建造物	島根県の民家　民家緊急調査報告書	島根県教育委員会	1969	県下の民家の緊急調査報告
	島根県近世社寺建築緊急調査報告書	島根県教育委員会	1980	県下の桃山・江戸時代の神社・寺院等の緊急調査報告
	島根県の近代化遺産　―島根県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書―	島根県教育委員会	2002	
	島根県の近代和風建築　―島根県近代和風建築総合調査報告書―	島根県教育委員会	2018	江戸末期～昭和初期の近代和風建築の総合的調査
有形文化財	出雲意宇六社文書	島根県教育委員会	1974	神魂・真名井・六所・熊野・八重垣・揖屋の六社所蔵の古文書調査報告
	島根県古文書緊急調査総合目録　―鰐淵寺文書・出雲大社文書・日御碕神社文書・小野家文書―	島根県教育委員会	1975	
	島根県古文書等所在確認調査報告書 1977～1978	島根県教育委員会	1979	県下に所在する近世までの古文書等の所在確認調査報告
	雲樹寺歴史資料調査報告書	島根県教育委員会	1988	安来市雲樹寺が所蔵する古文書・工芸品・絵画の調査報告
	島根の文化財 ―仏像彫刻編	島根県立博物館	1990	県下の重要仏像・彫刻の調査報告・図録
	島根の文化財 ―仏画・仏教工芸編	島根県立博物館	1995	

表 2-1　島根県及び国等における文化財関係調査報告書一覧
（埋蔵文化財調査報告書・研究報告書を除く）　令和６年(2024) 1 月 31 日現在 (2/2)

種別	報告書名称	調査主体	報告書刊行年	備考
民俗文化財	菅谷鑪	島根県教育委員会	1968	雲南市吉田町所在の菅谷鑪の総合調査報告
	広瀬絣	島根県教育委員会	1975	安来市の伝統工芸広瀬絣の調査報告
	島根県の民謡 ―民謡緊急調査報告書―	島根県教育委員会	1986	県下の民謡に関する緊急調査報告
	島根県の民俗芸能	島根県教育委員会	1989	県下の神楽、獅子舞、田楽、風流、祭礼などの悉皆調査の報告
	島根県の諸職	島根県教育委員会	1999	県下の諸職関係民俗文化財の調査報告
	島根の祭り・行事	島根県教育委員会	2000	
	消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究出雲方言調査報告書	国立国語研究所	2016	
記念物	歴史の道調査報告書 島根県歴史の道調査報告書第1集	島根県教育委員会	1995	山陰道（伯耆街道）・広瀬清水街道の調査報告
	歴史の道調査報告書 島根県歴史の道調査報告書第2集	島根県教育委員会	1996	山陰道（松江市～江津市）の調査報告
	歴史の道調査報告書 島根県歴史の道調査報告書第3集	島根県教育委員会	1996	銀山街道（温泉津～赤来）の調査報告
	歴史の道調査報告書 島根県歴史の道調査報告書第4集	島根県教育委員会	1997	湯町八川往還、安来阿井往還の調査報告
	歴史の道調査報告書 島根県歴史の道調査報告書第5集	島根県教育委員会	1997	山陰道（江津市～津和野町）の調査報告
	歴史の道調査報告書 島根県歴史の道調査報告書第6集	島根県教育委員会	1998	津和野廿日市街道・津和野奥筋往還の調査報告
	歴史の道調査報告書 島根県歴史の道調査報告書第7集	島根県教育委員会	1998	西廻り航路・隠岐航路の調査報告
	歴史の道調査報告書 島根県歴史の道調査報告書第8集	島根県教育委員会	1998	宍道尾道街道の調査報告
	歴史の道調査報告書 島根県歴史の道調査報告書第9集	島根県教育委員会	1999	浜田広島街道・浜田三次往還の調査報告
	歴史の道調査報告書 島根県歴史の道調査報告書第10集	島根県教育委員会	1999	松江美保関往還・松江杵築往還・巡見使道の調査報告
	歴史の道調査報告書 島根県歴史の道調査報告書別冊	島根県教育委員会	2000	1 ～10集の補遺編
	近代遺跡調査報告書 ―鉱山―	文化庁文化財部	2002	大田市永久鉱山、益田市馬谷城山鉱山等を収録
	名勝に関する調査研究事業報告書 古典に登場する名勝地調査	島根県教育委員会	2018	古事記、日本書紀、出雲国風土記などに登場する名勝地の調査
	近代遺跡調査報告書 ―交通・運輸・通信―	文化庁文化財第二課	2019	日御碕灯台を収録
	近代遺跡調査報告書 ―商業・金融業―	文化庁文化財第二課	2020	旧八束銀行本店、旧市山興業銀行を収録
埋蔵文化財	全国遺跡地図 島根県	文化庁	1978	
	島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅰ	島根県教育委員会	1983	出雲部の製鉄遺跡の分布調査報告書
	島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅱ	島根県教育委員会	1984	石見部の製鉄遺跡の分布調査報告書
	島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅲ	島根県教育委員会	1985	県下の窯業関係遺跡の分布調査報告書
	石見の城館跡 島根県中近世城館跡分布調査報告書1	島根県教育委員会	1997	石見部の中世城館分布調査報告
	出雲・隠岐の城館跡 島根県中近世城館跡分布調査報告書2	島根県教育委員会	1998	出雲・隠岐部の中世城館分布調査報告
	増補改訂島根県遺跡地図Ⅱ（石見編）	島根県教育委員会	2002	石見部の埋蔵文化財包蔵地の所在を示す地図（改訂版）
	増補改訂島根県遺跡地図Ⅰ（出雲・隠岐編）	島根県教育委員会	2003	出雲・隠岐部の埋蔵文化財包蔵地の所在を示す地図（改訂版）

出典：島根県文化財保存活用大綱

（２）未指定文化財の把握調査の成果とその状況

美郷町における未指定文化財の把握件数は、現段階（令和６年１月末現在）において 571 件となっている。…本章第２節２「（１）未指定文化財の概要」を参照

これら現時点での把握数やその類型を踏まえつつ、把握調査の状況及び個別的課題（未指定文化財）を整理すると、次の表のようになる。

なお、未指定文化財の詳細調査は、遺跡・埋蔵文化財の一部に限られている（次の「２　これまでの文化財の詳細調査」を参照）。

表 2-2　美郷町の未指定文化財の把握状況の整理と個別的課題の検討

類型		調査状況		把握調査の状況と個別的課題
		邑智地域	大和地域	
有形文化財	建造物	○	○	・把握している養蚕に関係した建造物以外にも、生業に関わった建造物が存在する可能性がある。 ・歴史的建造物の指定等に向けた調査又は記録保存のための調査を検討。
	美術工芸品	△	△	・土蔵等で埋もれている古文書などが多数存在する可能性あり。 ・石造物（工芸品、歴史資料）は未把握のものが多数存在する可能性あり。
無形文化財		△	△	・把握ができていない。
民俗文化財	有形	△	△	・生業や民俗芸能に関わる道具などが多数存在する可能性あり。 ・信仰等に関係する石造物（頌徳碑、地蔵など）は一定程度把握できている。
	無形	○	○	・未把握の民話や伝承などが存在する可能性あり。
記念物	遺跡	◎	◎	・埋蔵文化財としては多数把握している。 ・公共工事などで遺跡（埋蔵文化財）が発見される可能性あり。
	名勝地	○	○	・山中に存在する滝、渓流などが未把握の可能性あり。
	動植物	○	○	・巨樹や特徴的な樹木、並木の把握は、概ねできている。 ・島根県レッドデータブックなどで絶滅危惧種の存在は示されているが、具体的な場所の確認は十分でない。
	地質鉱物	△	△	・温泉や鉱山跡以外の把握調査は十分でない ・専門家等の協力、参加による調査が必要。
文化的景観		◎	◎	・江の川を軸とした文化的景観。
伝統的建造物群		◎	ー	・粕渕、浜原の町並み。
文化財の保存技術		△	△	・伝統的な技能を有する大工、左官等の技能者の存在の可能性あり。

＜調査状況の凡例＞
◎：把握調査は完了している
○：概ね把握調査はできている
△：把握調査は一部又は未着手（把握調査は十分でない、又はできていない）
ー：対象となる文化財（伝統的建造物群）は存在しない。

２　これまでの文化財の詳細調査

美郷町においては、これまでに９件の文化財調査（詳細調査）を行っており、これらのうち８件が遺跡、１件が天然記念物（オオサンショウウオ）の調査である。

また、調査を行った遺跡のうち、沖丈遺跡については町指定の文化財となり、石見銀山街道は史跡（国）に指定された。

表 2-3　美郷町における文化財調査等の概要

調査名	開始年度	終了年度	場所	実施主体	概要
沖丈遺跡調査	1994	1996	乙原	島根県川本土木建築事務所 邑智町教育委員会	第１調査区：1994～1996　弥生後期～平安初期竪穴住居址８棟。土器多数出土 第２調査区：1995～1996　弥生後期竪穴住居址 14 棟、弥生前期配石墓 12 基。土器、管玉等出土 第３調査区：1995　遺構なし
郷上遺跡調査	1990	1994	都賀行	島根県 大和村教育委員会	縄文時代:早期―押型文土器出土、後期中葉～晩期―溝状遺構、土器出土 弥生時代：竪穴住居跡２棟検出、土器出土 古墳時代：郷上古墳（横穴式石室）―土師器・須恵器及び鉄器出土、竪穴住居跡２棟 奈良・平安時代：奈良時代の竪穴住居、平安時代の八稜鏡（郷上古墳の追葬による遺物）、製塩土器出土 中世・近世：石組の水路状遺構、多数の陶磁器片出土 その他：漁労用具の石錘・土錘が多数出土
尼子陣所跡調査	1990	1991	都賀西	大和村教育委員会	東調査区:1990 年　６段の削平地を確認、溝状の遺構・柱穴状の落ち込み、こぶし大の礫、古銭・鉄片・キセルの雁首が出土 西調査区：1991 年　東調査区と同じ削平地と西のみの削平地を確認
上野鉚跡調査	1995	1996	上野	大和村教育委員会	遺構：鉄穴流し、鉚製錬炉、大鍛治場、鉄池 出土遺物：砂鉄、木炭、鉄木呂、炉壁、製錬滓、鍛治滓、煙管の雁首・吸口、古銭、陶磁器、入歯、かんざし
塩谷川オオサンショウウオ生息調査	1995	1996	長藤	大和村教育委員会	長藤地域魚切の塩谷川を江の川合流地点から上流４㎞までの区間を調査。４個体を確認。最大 105cm、13 kg。最小 50cm、2.2 kg
銀山街道「やなしお道」	2000	2000	別府・惣森	島根県川本農林振興センター 邑智町教育委員会	９か所のトレンチ溝を掘り断面を調査。 1.8m状の版築状突き固め層及び版築状修復層が確認される。
銀山街道「森原古道」	2009	2009	酒谷	美郷町教育委員会	西側をⅠ区、東側をⅡ区とし、トレンチ溝を８本設定。 幅員約２ｍと推定される古道の下層に細い道が確認された。
石見銀山街道	2017	2017	小松地～酒谷	美郷町教育委員会	これまでの調査報告書及び史料等を、国史跡としての歴史的価値という視点でまとめた。
四日市遺跡試掘調査	2020	2020	粕渕	美郷町教育委員会	調査面積 320 ㎡。旧水田の１区画当たり１～３か所、合計 53 か所に試掘坑を設定。 小規模な集石２か所、建物礎石とも考えられる石１、小土坑１及び土層断面などに複数の穴（ピット）を検出したのみで、明確な遺構は認められなかった。

第２節　美郷町の文化財の概要

１　指定等文化財

（１）指定等文化財の概要

美郷町の指定文化財としては、国指定の史跡１件（石見銀山街道）、県指定の天然記念物（妙用寺の桜、花の谷のサクラ、酒谷のオロチカツラ、学舎のイロハモミジ）が４件、町指定の文化財としては有形文化財（美術工芸品）が４件、無形の民俗文化財が３件、史跡が１件、天然記念物が３件の合計 11 件となっており、合わせて 16 件となっている。また、国の登録有形文化財が４件ある。したがって、指定等文化財としては合計 20 件となる。

なお、指定等文化財のリストには入れていないが、特別天然記念物（地域を定めない）であるオオサンショウウオの生息が確認されている。

加えて、国保有（東京国立博物館）の有形文化財（工芸品：重要文化財）が２件、県保管（県立古代出雲歴史博物館）の有形文化財（古文書：県指定文化財）が１件ある。

これらの他、神楽については、令和元年(2019)に「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」（浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町）として日本遺産に認定されている。

表 2-4　美郷町の指定等文化財の件数　　※令和６年(2024) 1 月 31 日現在

類型			国指定・選定	県指定	町指定	国登録	合計
有形文化財	建造物		0	0	0	4	4
	美術工芸品	絵画	0	0	1	0	1
		彫刻	0	0	2	0	2
		工芸品	0	0	1	0	1
		書跡・典籍	0	0	0	0	0
		古文書	0	0	0	0	0
		考古資料	0	0	0	0	0
		歴史資料	0	0	0	0	0
無形文化財			0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財		0	0	0	0	0
	無形の民俗文化財		0	0	3	0	3
記念物	遺跡		1	0	1	0	2
	名勝地		0	0	0	0	0
	動物・植物・地質鉱物		0	4	3	0	7
文化的景観			0	―	―	―	0
伝統的建造物群			0	―	―	―	0
合　計			1	4	11	4	20

―：制度上なし
登録有形文化財は令和６年３月、登録予定

表 2-5　美郷町の指定等文化財　　※令和６年(2024) 1 月 31 日現在

区分	種別	指定年月日	名称	所在地	所有者・保持者	備考
国	史跡	平 30.2.13	石見銀山街道	美郷町	美郷町他	江戸時代を通じて石見銀山算出銀の運搬道
県	天然記念物	昭 51.4.30	妙用寺の桜	浜原	妙用寺	胸高周り 3.3m、樹高 30m
		平 25.4.9	花の谷の桜	九日市	個人	胸高幹周り 5.56m、樹高 12.6m
		平 25.4.9	酒谷のオロチカツラ	酒谷	個人	胸高幹周り 9.85m、樹高 19.2m
		平 25.4.9	学舎のイロハモミジ	九日市	美郷町	胸高幹周り 3.1m、樹高 10m
町	絵画	昭 52.11.30	絹本著色霊峰冨士乃図 絹本著色晩秋乃群鹿図	潮村	個人	日本画家・中原芳煙（1875-1915）筆
	彫刻	平 14.12.26	尾原家の欄間と明かり障子	簗瀬	美郷町	室町時代
		平 16.9.1	木彫狛犬	宮内	田立建埋根命神社	永和３年在銘
	工芸品	平 14.12.26	鰐口	信喜	多聞寺（毘沙門堂）	備中洲新見荘熊野権現鐘也應安六年歳次癸丑五月初八日願主靭久光の銘あり
	無形民俗	昭 51.6.26	大和神楽「神迎･鐘馗の舞」	都賀本郷	大和神楽団	
		平 16.9.1	都賀西神楽「山伏」	都賀西	都賀西神楽保存会	
		平 16.9.1	都神楽「天の岩戸」	都賀行	都神楽団	
	史跡	平 14.12.26	沖丈遺跡	乙原	島根県	約 2,000 ㎡
	天然記念物	昭 51.6.26	田立建理根命神社樫ノ木	宮内	田立建理根命神社	推定樹齢 600 年、胸高回 5.0m、根回 7.9m
		平 14.12.26	別府八幡宮の大スギ	別府	別府八幡宮	推定樹齢 400 年、胸高回 6.2m、根回 30m
		平 25.2.4	シダレザクラ	九日市	美郷町	推定樹齢 120 年、胸高周囲 2.5m、樹高約 15m
国	登録有形文化財	令 6.3 予定	中原家住宅　主屋	潮村	個人	木造２階建、瓦葺、面積 315 ㎡ 建築年代：文化６年(1809)／昭和 15 年(1940)頃増築 火事により焼失した建物を再建
			中原家住宅　新座敷	潮村	個人	木造２階建、瓦葺、面積 74 ㎡ 建築年代：江戸末期
			中原家住宅　道具蔵	潮村	個人	木造２階建、瓦葺、面積 130 ㎡ 建築年代：寛政５年(1793)
			中原家住宅　門及び塀	潮村	個人	木造、瓦葺、 間口 1.4m、総延長 12m 建築年代：文化５年(1808)／大正後期改修

※中原家住宅は日本画家・中原芳煙の生家。

表 2-6　参考：町外に所在する指定文化財

区分	種別		指定年月日	名称	出土地・旧所在地	備考
国保有	有形文化財	工芸品（重文）	昭 48.6.6	銀杏葉雪輪散辻が花染胴越他	美郷町 ※東京国立博物館所蔵	慶長６年(1601)、徳川家康から拝領
		工芸品（重文）	昭 48.6.6	浅葱地葵紋付帷子	美郷町 ※東京国立博物館所蔵	
県保管		古文書（県指定文化財）	平 9.12.26	吉岡家文書	美郷町 ※県立古代出雲歴史博物館保管	

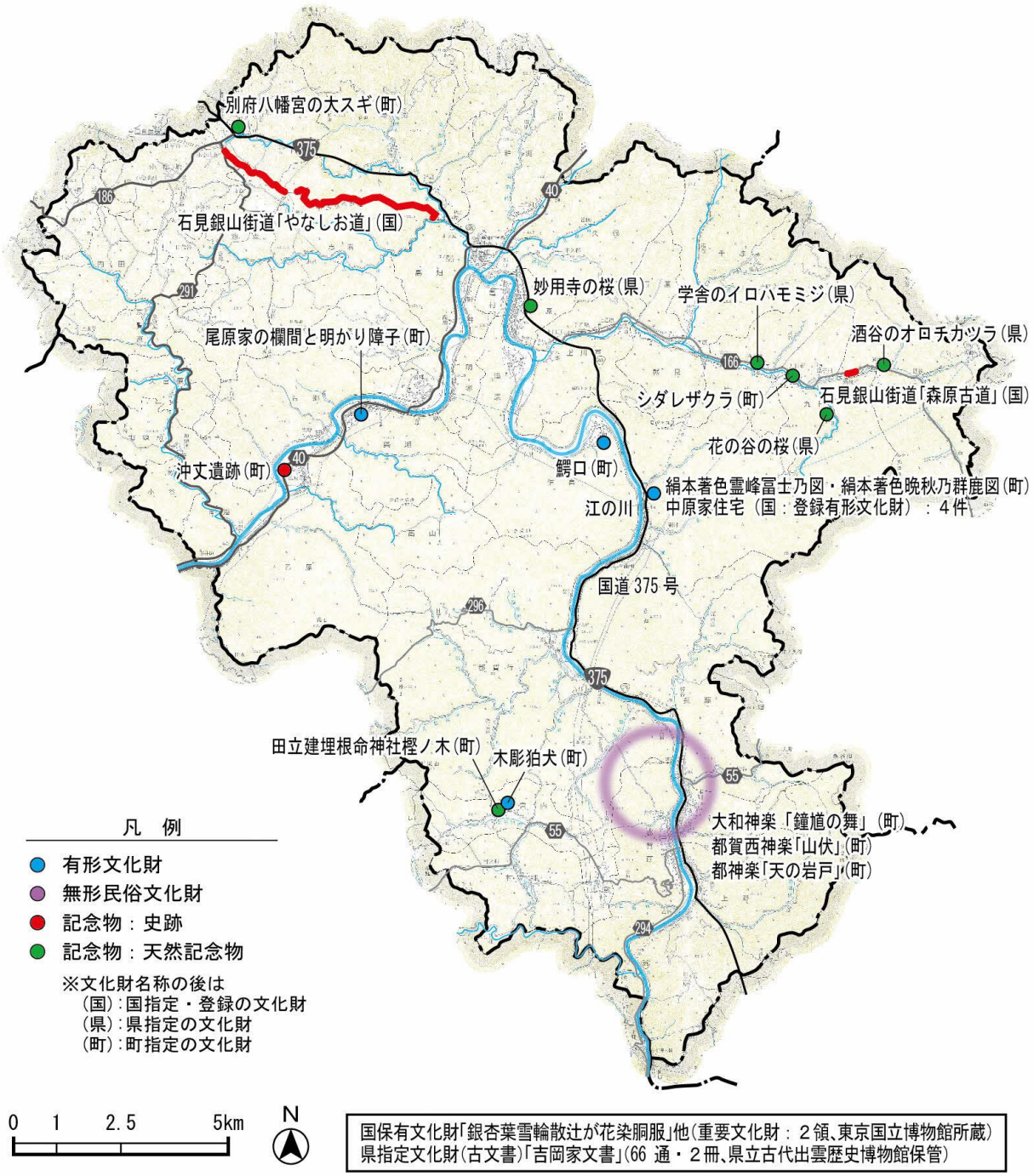


図 2-1　美郷町の指定等文化財の位置（古文書等を除く）

（２）指定等文化財の類型別の内容

美郷町において所在する指定等文化財について、文化財保護法に規定されている６類型（第２条）と埋蔵文化財（第 92 条）及び文化財の保存技術（第 147 条）ごとに内容を整理する。

なお、本町においては、指定・登録された無形文化財、有形の民俗文化財、名勝地、選定された文化的景観、決定・選定された伝統的建造物群、及び選定された文化財の保存技術は所在しない。

ア　有形文化財

１）建造物

本町には、登録有形文化財が１件（中原家住宅）あり、日本画家・中原芳煙の生家である。

現在の建物は、文化６年（1809）に火事により焼失した後に再建されたものである（江戸後期の建築）。



中原家住宅（登録有形文化財）

２）美術工芸品

本町には、指定されている美術工芸品として町指定が４件あり、絵画、彫刻、工芸品からなる。

これらのうち、絵画は「絹本（けんぽん）着色霊峰富士乃図・絹本着色晩秋乃群鹿図」であり、潮村出身の中原芳煙によって描かれた作品である。

「絹本着色霊峰富士乃図」は、明治 45 年（1912）に描かれた作品である。

「絹本着色晩秋乃群鹿図」は、明治８年（1875）～明治 42 年（1909）の間に描かれ、帝国美術展覧会の首席入賞作品でもある。





絹本著色霊峰富士乃図（左：外寸 189 ㎝×168 ㎝）・絹本著色晩秋乃群鹿図（右：外寸 206 ㎝×171 ㎝）。いすれも町指定文化財

彫刻は「尾原家の欄間と明かり障子」、「木彫狛犬」（田立建埋根命神社）であり、前者は室町時代の建築様式を残していた母屋（解体）のものであり、後者は永和３年(1377)の記録に「禅照献ず」とある。



尾原家の欄間と明かり障子（町指定文化財）



木彫狛犬（町指定文化財）

工芸品は「鰐口」であり、「備中洲新見荘熊野権現鐘也應安六年歳次癸丑五月初八日願主靭久光」の銘がある。…慶安６年(1373)



鰐口（町指定文化財）

イ　無形文化財

本町には、指定・登録されている無形文化財は所在しない。

ウ　民俗文化財

１）有形の民俗文化財

本町には、指定・登録されている有形の民俗文化財は所在しない。

２）無形の民俗文化財

本町には、指定されている無形の民俗文化財として、町指定が３件ある。

これらのうち大和神楽団による「大和神楽（神迎・鐘馗の舞）」は、故事に基づいて作られたと伝わり、演目における神の正体が素戔嗚尊であり他地域のものと大きく異なるとされている。

都賀西神楽保存会による「山伏」は、謡



都賀西神楽保存会による神楽上演（町指定文化財：美郷町観光協会ＨＰ）

曲安達ヶ原の鬼と栃木県那須町の殺生石（せっしょうせき）の伝説を基に構成された演目である。

都神楽団による「天の岩戸」は古事記の上巻・天の岩戸の物語を神楽化したものとなっている。



都神楽団による神楽上演（町指定文化財：美郷町観光協会ＨＰ）

エ　記念物

１）遺跡

指定されている遺跡（史跡）は２件（国１件、町１件）ある。

国指定史跡として石見銀山街道が指定されている。石見銀山街道は、江戸時代に入り、大森（大田市大森町）で産出される銀を輸送する目的で整備されたもので、江戸幕府の経済を支えた道としての重要性が認められ、「やなしお道」の一部と「森原古道」が指定されている。

町指定史跡の「沖丈遺跡」は、平成７年(1995)～平成８年(1996)の発掘調査により、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、石器、鉄器、陶磁器、玉類が出土。弥生集落跡や墳墓が確認されている。



史跡石見銀山街道（やなしお道）

２）名勝地

本町には、指定・登録されている名勝地は所在しない。

３）動物・植物・地質鉱物

指定されている動物・植物・地質鉱物（天然記念物）は７件（県４件、町３件）ある。

県指定の天然記念物としては「妙用寺の桜」、「花の谷の桜」、「酒谷のオロチカツラ」、「学舎のイロハモミジ」の４件となっている。

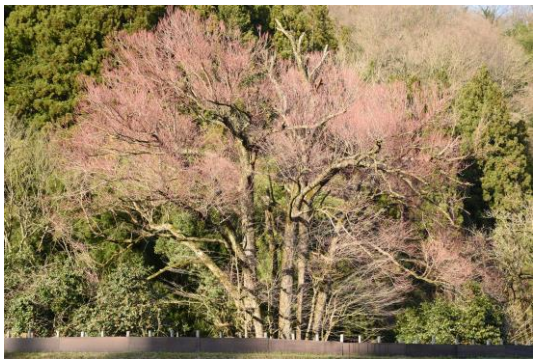
町指定の天然記念物としては「田立建理根命神社樫ノ木」、「別府八幡宮の大スギ」、「シダレザクラ」（前川ザクラ）の３件となっている。



妙用寺の桜（県指定文化財）



花の谷の桜（県指定文化財）



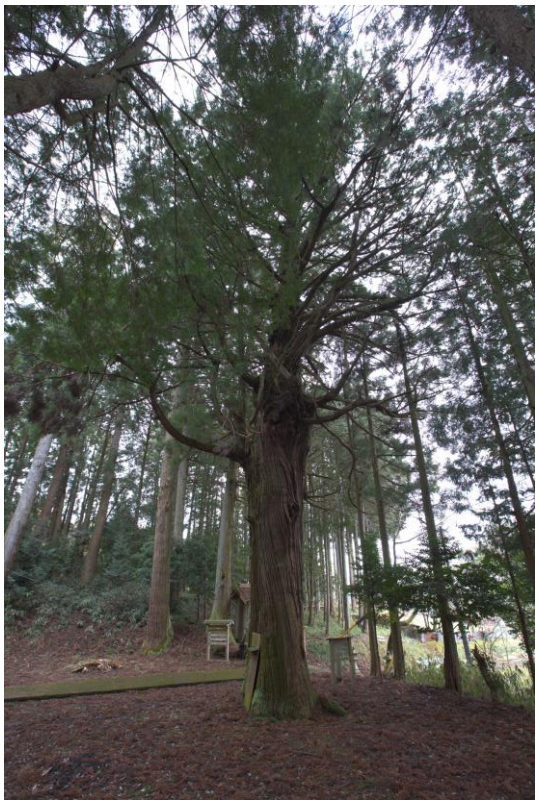
酒谷のオロチカツラ（県指定文化財）



学舎のイロハモミジ（県指定文化財）



田立建理根命神社樫ノ木（町指定文化財）



別府八幡宮の大スギ（町指定文化財）



シダレザクラ（町指定文化財）

オ　文化的景観

本町には、選定されている文化的景観は所在しない。

カ　伝統的建造物群

本町には、決定（市町村）・選定されている伝統的建造物群は所在しない。

キ　文化財の保存技術

本町には、選定されている文化財の保存技術は所在しない。

２　未指定文化財

（１）未指定文化財の概要

現時点（令和６年１月末現在）で把握している未指定文化財は 571 件となっており、記念物（遺跡）が 197 件、有形文化財（美術工芸品）が 162 件と相対的に多く、次いで記念物（名勝地）65 件、記念物（動植物）45 件、有形文化財（建造物）が 38 件等となっている。

民俗文化財は有形が 28 件、無形が 17 件となるが、有形の民俗文化財については、更に多くが所在すると推定される。

文化的景観については、江の川を中心に２件が把握できている。

伝統的建造物群については、「群」とまででではないが、粕渕（小原宿）で複数の伝統的建造物の一定の集積を見ることができ、舟運の中継地であった浜原においても点在している。

一方、地質鉱物は、町域の広さ及び変化に富んだ地形から、多数所在すると考えられるが、把握できたのは４件にとどまっている。

無形文化財や文化財の保存技術は把握できていない。

＜参考：遺跡（埋蔵文化財等）＞

遺跡（埋蔵文化財等）については、島根県遺跡データベース（島根大学）において 194 件（埋蔵文化財が中心）が確認されている（令和５年 11 月１日現在）。ただし、重複している遺跡などを調整すると、本町の遺跡は 191 件となる。これらの中には、「道標」が３件あるが、これについては有形文化財の美術工芸品（歴史資料）として捉えることとし、遺跡としては 188 件として次頁の表 2-8 では整理する。

なお、この表には、指定文化財２件（史跡石見銀山街道…指定区間と未指定区間を１件で計上、町指定文化財沖丈遺跡）を含んでいる。

遺跡の位置については、詳細な位置が地図上に記されている『美郷の文化財』を基本に、島根県遺跡データベースとの照合を図った。このため、遺跡が所在する地区については両者で若干の違いがある。

※島根県遺跡データベース(島根大学)については、「https://iseki.shimane-u.ac.jp/」で公開されている。

※遺跡（埋蔵文化財等）の位置については、島根県が取りまとめを行い、「島根県統合型ＧＩＳ　マップ on しまね　島根県遺跡マップ」において、ホームページに公開されている。

・県ホームページアドレス（マップ on しまね：下記）

「https://web-gis.pref.shimane.lg.jp/shimane/Portal」から「島根県遺跡マップ」

表 2-7　美郷町の未指定文化財の件数（令和６年１月末現在）

類型		邑智地域						大和地域							地域・地区重複	合計
		吾郷	粕渕	浜原	沢谷	君谷	別府	比之宮	都賀西	上野	都賀本郷	長藤	潮・曲利	都賀行		
有形文化財	建造物	6	9	4	3	2	2	1	1	1	4	0	4		1	38
	美術工芸品等	30	40	21	18	15	11	2	3	6	4	3	7	2		162
無形文化財																
民俗文化財	有形	5	4	2	3	1	3		2	1	1		3	2	1	28
	無形	1			1		2		3		1		2	1	6	17
記念物	遺跡	21	22	11	29	9	10	23	9	11	12	9	12	17	2	197
	名勝地	13	9	4	13	1	2	2	1	2		3	3	3	9	65
	動植物	6	9	6	7	3	1		2	1		1	1	1	7	45
	地質鉱物	1	1		1								1			4
文化的景観											1				1	2
伝統的建造物群			1	1												2
文化財の保存技術																
その他		1	1								6			2	1	11
合計		84	96	49	75	31	31	28	21	22	29	16	33	28	28	571

表 2-8　参考：遺跡・埋蔵文化財の件数：島根県遺跡データベース（島根大学）等

地域・地区 ＼ 区分	邑智地域（未指定 98 件）						大和地域（未指定 88 件）							地域・地区重複	合計
	吾郷	粕渕	浜原	沢谷	君谷	別府	比之宮	都賀西	上野	都賀本郷	長藤	潮・曲利	都賀行		
製鉄遺跡（鉧跡等）	3	5	5	9	5		5	1	2	2	3	11	8		59
山城跡	7	4	5	7	4	2	4	3	2	3	4	1	5	1	52
散布地	4	6	2	1			6	1	4	2	1		1		28
古墳		2			1		6	3		1	1				14
横穴墓	1	2	1	2	3	1	1								11
街道関連遺跡				2				1		1			1	1 (1)	6 (1)
瓦窯跡	1	1		1		2	1		2						8
集落跡	4 (1)			2									1		7 (1)
寺院跡・関連石造物	1			1											2
鉱山跡	1														1
合計	22 (1)	20	13	25	13	5	23	9	10	9	9	12	16	2 (1)	188 (2)

※遺跡・埋蔵文化財については、島根県遺跡データベース（島根大学）及び島根県統合型 GIS「マップ on しまね」で公開されており、その数は 194 件であるが、うち３件は重複と考えられることから 191 件となる。さらに、「道標が３件あるが、これらは有形文化財の美術工芸品（歴史資料）とした。その結果、遺跡・埋蔵文化財は 188 件（登矢ヶ丸城跡は邑智・大和の地域間の重複あり、石見銀山街道は地区(邑智)の重複あり）となる。

※（　）は内数で指定文化財:町指定文化財「沖丈遺跡」、「史跡石見銀山街道」



図 2-2　未指定文化財（有形文化財・民俗文化財［有形］）の分布



図 2-3　未指定文化財（製鉄遺跡・窯跡等）の分布



図 2-4　未指定文化財（山城跡・陣所跡）の分布



図 2-5　未指定文化財（原始･古代の遺跡）の分布



図 2-6　未指定文化財（墳墓・寺院跡・街道等）の分布



図 2-7　未指定文化財（名勝地：雲海（眺望点）・滝・近代化遺産等）の分布

（２）未指定文化財の類型別の概要

類型別に美郷町の代表的な未指定文化財について記述する。

ア　有形文化財

１）建造物

伝統的建造物（建築物）としては、粕渕の林家住宅（現・旅館「亀遊亭（きゆうてい）」）、浄土寺四脚門（よつあしもん）、前林家住宅などがあり、小原本陣跡には往時の石垣、及び住宅として改修された土蔵も残る。

浜原には二上家住宅があり、江の川舟運の中継地として面影を伝える。また、町内各地に、寺社をはじめとした歴史的な建築物が所在する。

沢谷には、江戸時代後期の面影を残す旧前川家住宅があり、現在は「ふるさとおおち伝承館」として活用されている。敷地内には「前川ザクラ」（町指定文化財）がある。

生業と関係する建造物としては、養蚕を行っていた農家住宅や納屋が残されている。これらは、江の川沿いに加え、山間にも位置し、養蚕が全町的に行われていたことを示唆する。

石造物としては、神社の鳥居、石造の塔が所在する。

また、旧三江線の鉄橋が江の川に架かった状態で現存する。なお、橋梁については、美郷町観光協会が「美郷の美しい 14 の橋」として紹介しており、これらは近代化遺産でもあるが、本計画では江の川や周辺の山並み･緑等と一体となった名勝地として取り上げる（前記の「旧三江線の鉄橋」以外）。



林家住宅（現・旅館「亀遊亭」）



浄土寺四脚門



二上家住宅



旧前川家住宅（ふるさとおおち伝承館）と前川ザクラ



江の川に架かる旧三江線の鉄橋（旧第一江の川鉄橋）



養蚕を行っていた桁行方向が長い納屋

２）美術工芸品

絵画としては、本町（潮村）出身の中原芳煙作の屏風（「虎図屏風」、「鹿図屏風」）、江戸時代後期の画家・佐和呉峡（1813-1855）作の山水画、親鸞上人等の絹本着色の絵、般若図、板絵など残されている。



虎図屏風。中原芳煙により明治 39 年(1906)に描かれた作品

彫刻としては、やなしお道（石見銀山街道）の傍らの小堂にあった石像が別府八幡宮境内に移設された「十王堂の六観音」、鷹と一体となった「木彫りの亀と由来書」(江戸末期の銘)、阿弥陀如来立像・座像等、及び多数の鰐絵がある。鰐絵は石州左官によるもので、建築物が解体された時には鰐絵を切り取り、みさと館や役場（ホール）などで保存･展示している。



十王堂の六観音（別府八幡宮境内）

工芸品としては、甲冑、火縄銃、脇差し、弓、江戸時代のソロバン、石灯籠等とともに、多数の喚鐘がある。

書跡・典籍としては、江戸時代後期の儒学者、書家である佐和華谷（1759-1831）の墨跡などがある。

古文書としては、幕末に本陣を務めた林家文書、絵図、たたら関係の文書などが多数残されてお入り、古文書を読む会によって保存や解読等が行われている。

考古資料としては、沖丈遺跡（町指定文化財）等で出土した遺物を、「ふれあい広場邑智ミニトレーニングセンター」で保管している。

歴史資料としては、アメリカ移民の記録、簗瀬駅看板、複数の道標がある。



前林家の鰐絵（みさと館で展示）



喚鐘



佐和華谷墨跡



沖丈遺跡の遺物。土器、玉類

イ　無形文化財

本町において、演劇、音楽、工芸技術等の無形文化財は確認できていない。

なお、神楽や踊り等は民俗文化財としている。

ウ　民俗文化財

１）有形の民俗文化財

有形の民俗文化財のうち道具類としては、養蚕の用具、唐箕（風を起こして穀物を籾殻・玄米・塵等に選別する農具）、田下駄等の農耕用具、飯びつ、石臼等の炊事用具等が「ふるさとおおち伝承館」に残されている。

また、神楽で使用する衣装や面、笛など、民俗芸能で使用されるものもある。



江の川に設置された築での漁

生業に関わる仕掛けとしては、築漁の築（川の瀬に竹等を並べ魚を受けて捕る仕掛け）が、大和伝統漁業築保存組合によって、江の川流域では唯一、設置されている。近くには「鮎の館」があり、築や築漁と合わせて、まちづくりの資源にもなっている。

この他、大森代官であった井戸平左衛門の頌徳碑（井戸明府碑）、馬頭観音、地蔵など信仰や慣習に関わる石碑、昔の生活用具などが残されている。



井戸平左衛門の頌徳碑

２）無形の民俗文化財

美郷町においては、町指定の３つの神楽以外にも、千原神楽団、忍原地頭所神楽団、乙原舞子連中等により神楽が演じられている。

秋の例祭では、浴衣に「たくり」と呼ばれる色とりどりの帯を背負い、太鼓を身体の前に吊り下げ、それを笛に合わせて叩きながら練り歩く民俗芸能が行われている。これを沢谷地区の一部ではははやしこう、それ以外の邑智地域ではシャギリ、大和地域では楽打ちと呼ばれている。

別府地区では花田植が復活し、笛や太鼓の音が響く中、早乙女が田植えを行う。

また、有形の民俗文化財の築は、築漁の場所でもあり、生業に関わる無形の民俗文化財ともいえる。



神楽の衣装・面…千原神楽団
（上・下：美郷町観光協会ＨＰ）



花田植

エ　記念物

１）遺跡

製鉄遺跡（鉧跡）、山城跡がともに 50 件を超え、散布地、古墳、横穴墓、街道関連遺跡、瓦窯跡、集落跡、寺院跡、鉱山跡が所在する。

これらのうち製鉄遺跡は、山中に埋もれた状態であるが、町内各所の谷間などに広く分布しており、斐伊川や神戸川流域だけでなく、江の川流域においても重要な産業であったことを示している。

山城跡の多くは、江の川や街道沿いに分布し、交通を掌握することが重要であったことを示している。その中で都賀西にある尼子陣所跡は、郡山城（広島県安芸高田市）の毛利氏を攻めた尼子氏が、敗走する時（天文 10 年(1541)）、ここに終結し帰路についたという陣所である。

鉱山跡としては銅ヶ丸鉱山跡があり、中世から銅の採掘を始めたといわれ、江戸時代には幕府直轄領となり、明治時代の終わりまで機能していた鉱山で、一帯には採掘跡、坑口、製錬所跡など多数の遺構が存在する。

２）名勝地

名勝地とは、芸術上または観賞上価値が高い土地であり、庭園、橋梁、渓谷、山岳など限定された範囲から大きな広がりを有するものまである。

美郷町においては、江の川と周辺の山並み等をあげることができ、各所でそれぞれに特徴ある景観を呈し、それらが江の川を通じて連続・一体化しており、後述する文化的景観でもある。特に印象的な場所としては、粕渕付近の江の川が湾曲する区域、浜原ダムとその上下流、旧鉄橋を含め 14 の橋梁一帯があげられる。


粕渕付近で湾曲する江の川と旧三江線の鉄橋（左手）

渓谷や滝に関しては、比之宮地区に大小３つの滝と絶壁が壮観な蟠龍峡（ばんりゅうきょう）があり、遊歩道を歩きながら自然や絶景を体感できる。そのほかにも、沢谷地区の坊主ヶ滝（千原川）、粕渕地区の湯抱雨の滝、長藤地区の魚切の滝など多数の滝や渓谷（渓流）が所在する。


蟠龍峡（美郷町観光協会ＨＰ）


江の川と橋（吾郷大橋）

加えて､本町は江の川と周囲の山並みとにより雲海が発生しやすい環境にあり､特に春、秋はいくつも連なる山を覆い隠すように真っ白い雲海が広がり、それを体感する絶好の眺望の場として野間雲海ビュースポットと田之原展望台がある。これらの場所をはじめ町内各所では、雲海が発生しない時期においても、特に晴れた日は中国山地を広く見渡すことができ、なだらかな山並み、緑（秋は紅葉)、空の青と白い雲が、伸びやかで美しい景観を形づくっている。なお、美郷町では公立鳥取環境大学環境学部局地気象・生気象学研究室と連携し、ホームページに「美郷町雲海予報」を設けている。



野間雲海ビュースポットからの雲海（美郷町観光協会ＨＰ）

３）動物・植物・地質鉱物

動物としては、哺乳類、鳥類、は虫類、昆虫等の陸上動物、及びアユやウナギをはじめとした魚類、モクズガニ等の甲殻類、両生類が生息し、本計画での文化財リストには、魚類・甲殻類、両生類（カスミサンショウウオ等)、及び絶滅のおそれのある哺乳類、昆虫類をあげている。

植物に関しては、町域の大半が森林であることも背景となり、多種多様な植物が生育している。こうした中にスギやサクラ、タブノキ等の巨木、シャクナゲ等の貴重な樹木（花木)、エビネ、オキナグサ等の絶滅危惧種（山野草）が根づいている。また、沢谷地区のもみじ街道やシャクナゲパーク、潮地区の桜並木と旧三江線の線路跡が一体となった場所などは名所（名勝地）にもなっている。

地質鉱物としては､銅ヶ丸鉱山跡で黄銅鉱、閃亜鉛鉱、黄鉄鉱、ざくろ石などが確認され、遺跡であると同時に、地質鉱物の産出地としても位置づけられる。また、歴史のある３つの温泉（湯抱温泉、千原温泉、潮温泉）があり、少し前までは大和地域にもう一つの温泉（魚切温泉）が稼働していた。



潮地区の桜並木（右手は旧三江線の線路跡）



シャクナゲ自生地やシャクナゲパークの入口

オ　文化的景観

江の川と集落、農地、山地・森林、そしてダムや橋・旧鉄橋等がコントラストをなす文化的景観が、江の川全体を通じて形づくられている。

その中の一つに、昭和 28 年(1953)に完成した重力式コンクリートダムである浜原ダムがあり、12 門の水門を整列させて河川を横切り、特徴的な景観となっている。

浜原ダムで貯水された河川水の一部は、送水路（トンネルなど）を経て下流の明塚発電所に送られ、水力発電を行うことになり、これらは産業遺産でもある。浜原ダムの上流、旧潮駅付近には昭和 31 年(1956)に完成した潮発電所があり、これは隣接する飯南町を流れる神戸川の来島ダムで貯えた水を潮発電所の動力とし、さらに、その水は江の川に流し、浜原ダムに貯水することになり、こうした分水嶺をまたいでの水の補給により、明塚発電所の電力量にも寄与している。



江の川と浜原ダム

加えて、邑智地域では、江の川沿いの幾つかのポイントで三瓶山を眺望することもでき、文化的景観の趣を高めている。



江の川と三瓶山

さらに、都賀本郷の江の川近くには棚田が広がり、川沿いの旧来からの集落、その上を通っていた旧三江線の高架橋跡が、歴史の重層性を感じさせる景観を形づくっている。

この他、農地を油田と見立ててヒマワリを植え、活用するプロジェクトにより、夏には一面の黄色の景観が広がる場所（沢谷熊見地区）もある。





江の川と都賀本郷の集落。旧三江線の線路・高架橋等も残る

カ　伝統的建造物群

美郷町においては、石見銀山街道の宿場町であった粕渕（小原宿）、江の川舟運の中継地であった浜原において、石見銀山街道や町割とともに、伝統的建造物の一定の集積（点在）をみることができる。

粕渕（小原宿）には、幕末に本陣であった旧本林家住宅（現・亀遊亭）、山陰地方における浄土真宗の根本道場として知られる浄土寺、土蔵や石垣が残る小原本陣跡などがあり、往時の町割の多くが継承されている。

浜原は、江の川と並行して通る石見銀山街道を中心に形成された街であり、通り沿いに伝統的建造物が点在し、中継地としての面影を残すとともに、寺社の建造物や緑が歴史的な風情を高めている。加えて、三瓶山を眺望することもできる。



江の川近くに位置する粕渕（小原宿）の町並み。江の川の文化的景観の構成要素ともいえる



粕渕（小原宿）の町並み（亀遊亭、浄土寺四脚門など）



江の川（左手）に沿って形づくられた浜原の町並み。石州瓦（赤瓦）が印象的な家並みが続く。江の川の文化的景観の構成要素ともいえる

キ　その他

その他の文化財としては、「高梨の水神様」、「遊那伝説」、「鯨石」等の各種伝説・言い伝えが伝承されている。これらのうち「鯨石」は、大和中学校近くの江の川の中にある鯨に似た石に関する伝説であり、地域の名所にもなっている。

また、舟運や川に関する地名「港、粕渕、浜原、都賀、乙原、簗瀬、潮」が、江の川沿いの各所に引き継がれている。

これらの他、古い写真や葉書も保管されている。



大和中学校近くの江の川にあり、マッコウクジラにも見える鯨石。数々の伝説がある